



■事後評価

【都市計画道路整備の課題】

・中心市街地や市街地周辺では、著しい交通混雑や交通安全上の問題が発生していることから、交通の円滑化や交通安全の確保を図ることで。



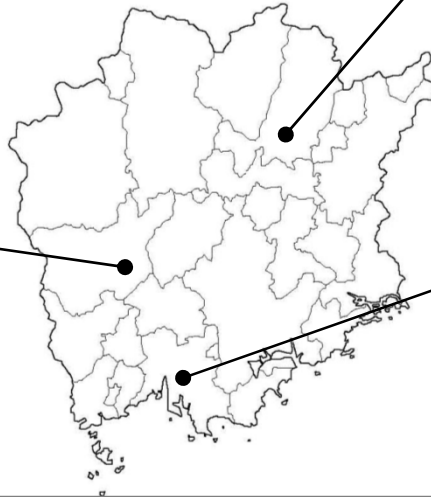
【幅員狭小・事故危険】
(都)大谷一宮線の旧道部(津山市)



【幅員狭小・事故危険】
(都)金光船穂倉敷線の旧道部(倉敷市)



【幅員狭小】
(都)南町近似線の旧道部(高梁市)



【整備目標】

・人と物のスムーズな移動による快適生活県の向上を目指し、渋滞の解消を行い交通流を円滑にするため、安全・安心で快適に移動できる道路空間を創出することを整備目標として事業を推進します。

《定量的指標の最終目標値と最終実績値》

指標① 広幅員歩道整備による歩行者・自転車の移動サービスの向上

最終目標値 40百万円

目標値と実績値
に差が出た要因

一部事業箇所において、地元との交渉難航などにより、事業が完了できず、目標値の達成ができなかった。

最終実績値 7百万円

指標② 都市部における渋滞の解消による移動快適性の向上

最終目標値 15%減

目標値と実績値
に差が出た要因

計画的な整備により目標を上回った。

最終実績値 17%減

【対策の実施】

・設定した目標にむけて、新設道路等の整備を実施しました。



■バイパス整備■
(都)金光船穂倉敷線(倉敷市)



■バイパス整備■
(都)大谷一宮線(津山市)

【最終目標の実現状況と今後の方針】

・最終目標の達成状況を確認した結果、一部の事業で完了が遅れているものがあり、指標①の最終実績値が最終目標値に達していないものの、指標②については、順調に事業進捗が図られ、効果発現目標が達成されている。県内には渋滞対策や隘路対策を必要とする箇所がまだあるため、引き続き次期計画において事業を推進することとします。

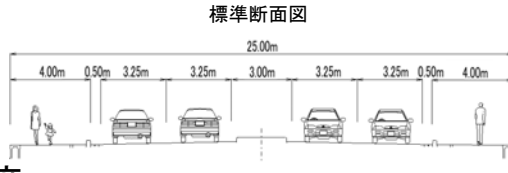
NO.9 岡山県の安全・安心で快適なまちづくりを目指した街路整備



(都) 金光船穂倉敷線(倉敷市水江～西阿知町西原)

【事業概要】

延長: L=1,800m
 幅員: W=13.0(25.0)m
 全体事業費: 約52億円
 事業期間: H16～24年度



【道路の位置付け】

本路線は、倉敷市水江から西阿知町西原に至る路線で、沿線集落と日常生活の中心都市である倉敷市街地を結ぶ道路です。
 地域住民の生活を支える道路として利用されています。

【整備前の状況】

・旧道幅員が4～5mと狭いにも拘わらず、他に通行できる路線が無いため通行車両が多く、すれ違いに支障を来していました。更に通学路でもあるため、通行児童に対し、とても危険な状態でした。

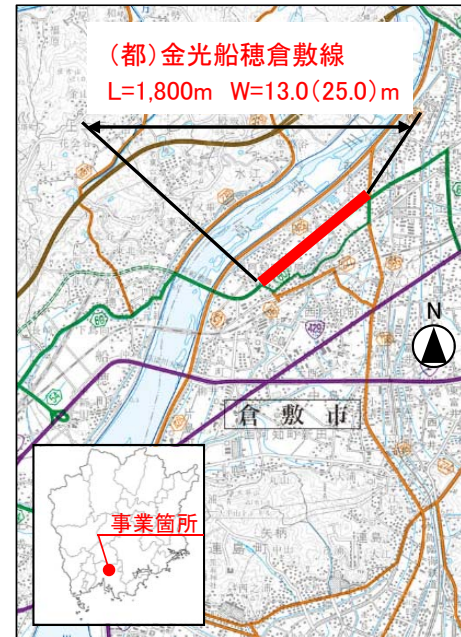


一般車とのすれ違い困難(旧道部)



歩道が未整備で狭い路肩を通学する児童(旧道部)

【整備後(整備効果)】



■ 交通難所の解消

- ・旧道の幅員狭小区間をバイパスにより回避し円滑な交通が確保されました。
- ・倉敷市中心部へのアクセス性が向上しました。

■ 安全安心な道路空間の形成

- ・歩道設置により、安全な歩行空間が確保されました。



道路整備後の状況(バイパス部)

新設道路へ交通が転換されたことによる歩行者の安全確保



道路整備後の通学状況(旧道部)



NO.9 岡山県の安全・安心で快適なまちづくりを目指した街路整備



(都) 南町近似線(高梁市原田北町～浜町)

【事業概要】

延長:L=210m
 幅員:W=6.5(20.0)m
 全体事業費:約6億円
 事業期間:H20～27年度

【道路の位置付け】

本路線は、高梁市原田北町から浜町に至る路線で、JR備中高梁駅及び国道484号へアクセスする道路です。地域住民の生活を支える道路として利用されています。

【整備前の状況】

・現道幅員が4m程度と狭く、すれ違いに支障を来していました。更に歩道も未整備であるため、歩行者等に対し、とても危険な状態でした。



路肩が狭く歩道が未整備の現道



大型車とのすれ違い困難

【整備後(整備効果)】

- 交通難所の解消
 - ・現道の幅員狭小区間の整備により円滑な交通が確保されました。
 - ・JR備中高梁駅及び国道484号へのアクセス性が向上しました。
- 安全安心な道路空間の形成
 - ・歩道設置により、安全な歩行空間が確保されました。

道路整備後の状況

歩道整備後の通学状況

NO.9 岡山県の安全・安心で快適なまちづくりを目指した街路整備



(都) 大谷一宮線(津山市山北～小原)

【事業概要】

延長: L=706m
 幅員: W=6.5(20.0)m
 全体事業費: 約44億円
 事業期間: H16～23年度

【道路の位置付け】

本路線は、津山市山北から小原に至る路線で、沿線集落と市街地を結ぶ道路です。地域住民の生活を支える道路として利用されています。

【整備前の状況】

・旧道幅員が4～5mと狭いにも拘わらず、通行車両が多いため、すれ違いに支障を来していました。更に通学路でもあるため、通行児童に対し、とても危険な状態でした。



交通量が多く大型車とのすれ違い困難(旧道部) 歩道が未整備で狭い路肩を通学する児童(旧道部)

【整備後(整備効果)】

■ 交通難所の解消

- ・旧道の幅員狭小区間をバイパスにより回避し円滑な交通が確保されました。
- ・津山市中心部へのアクセス性が向上しました。

■ 安全安心な道路空間の形成

- ・歩道設置により、安全な歩行空間が確保されました。

道路整備後の状況(バイパス部)

道路整備による渋滞解消及び歩行者の安全確保



道路整備後の状況(旧道部)



道路整備後の通学状況(旧道部)